

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学総論 (疾病の成り立ちと臨床検査)	1	1	前期	医師 臨床検査技師	慈風会職員 2名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	病理学 臨床検査 /医学書院	
概要	健康逸脱状態・疾患の病態生理及び、病変の主要因、検査に関する知識を理解する。					
目標	1. 細胞の変性、壊死、アポトーシス、萎縮、創傷の治癒について理解できる 2. 循環障害の病態、炎症の定義と病態について理解できる 3. 腫瘍の病態、分類について理解できる 4. 血液検査各種について理解できる 5. 尿検査、便検査について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1・2 3・4 5・6 7・8 9 10 11・12 13・14 15	医師:20時間(終講試験2時間含む) 1章 病理学で学ぶこと 看護と病理学 病気の原因 病気の分類と病理学の学び方 2章 細胞組織の損傷と修復 炎症 細胞組織の損傷と適応 細胞組織の損傷に対する反応としての炎症 炎症の分類と治療 3章 免疫と免疫不全 アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療 5章 循環障害 循環系の概要 浮腫 充血とうっ血 出血と止血 血栓症 塞栓症 虚血と梗塞 側副循環による傷害 高血圧症 播種性血管内凝固症候群 ショックと臓器不全 6章 代謝障害 脂質代謝障害 タンパク質代謝障害 糖質代謝 その他の代謝障害 8章 先天異常と遺伝性疾患 遺伝の生物学 先天異常 遺伝子の異常と疾患 診断と治療 9章 腫瘍 腫瘍の定義と分類 悪性腫瘍の広がりと影響 腫瘍発生の病理 腫瘍の診断と治療 臨床検査技師:10時間 1章 臨床検査とその役割 3章 一般検査 A尿検査 B便検査 D脳脊髄液(髄液)検査 5章 化学検査 A血清タンパク質の検査 B血清酵素の検査 C糖代謝の検査 D脂質代謝の検査 E胆汁排泄関連物質の検査 F窒素化合物の検査 H腎機能の検査 I水・電解質の検査 J血液ガス分析 Mビタミンの検査 N血中薬物濃度の検査 6章 免疫・血清学的検査 A炎症マーカーの検査 B液性免疫の検査 C細胞性免疫の検査としての血球細胞表面マーカー D自己抗体の検査 Eアレルギー検査 G腫瘍マーカーの検査 H輸血に関する検査 7章 内分泌学的検査 A下垂体前葉ホルモンの検査 B下垂体後葉ホルモンの検査 C甲状腺ホルモンの検査 D副甲状腺ホルモンの検査 E副腎皮質ホルモンの検査 F副腎髄質ホルモンの検査 G男性性腺ホルモンの検査 H女性性腺ホルモンの検査 Kその他のホルモンの検査 10章 生体検査 A循環機能検査 B呼吸機能検査 C神経機能検査 終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学各論Ⅰ (呼吸機能の障害)	1	1	後期	医師	慈風会職員 3名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	成人看護学②呼吸器 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 臨床外科看護各論 /医学書院	
概要	呼吸器疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
目標	呼吸器疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
回数	授業内容・計画					
1	医師:12時間(終講試験2時間含む)					
2・3・4	3章 症状とその病態生理 A自覚症状 ①咳嗽 ②喀痰 ③血痰・咯血 ④胸痛 ⑤呼吸困難 B他覚症状 ①チアノーゼ					
5	4章 検査と治療・処置 B検査 ②喀痰検査 ④胸水検査 ⑤画像診断 ⑥内視鏡検査 ⑦生検 ⑧呼吸機能検査 C治療・処置 ①吸入療法 ②酸素療法 ③人工呼吸療法 ⑥胸腔ドレナージ					
	5章 疾患の理解 B感染症 C間質性肺疾患 D気道疾患 E肺循環疾患 F呼吸不全 ★気管支喘息は小児看護学で、酸塩基平衡は解剖生理学総論で学習予定					
6	医師:8時間					
7	【臨床外科看護総論】 1章 外科医療の基礎 A外科的治療の特徴と変遷 B手術侵襲と生体の反応					
8	4章 外科的治療の実践 A外科的基本手技 B低侵襲手術 C臓器移植					
9	【臨床外科看護各論】 1章 肺および胸部 E乳腺の疾患 3章 消化器および腹部 H脾臓の疾患 5章 頭部および頸部 A口腔・咽頭・喉頭・頸部の疾患 ⑧悪性リンパ腫 ⑨がんのリンパ節転移 6章 小児の外科疾患 A小児外科の基礎知識 B顔面口唇口蓋疾患 C消化器一般外科疾患					
10・11	医師:10時間					
12・13	1章 肺および胸部 A肺および気管支の疾患 ⑤肺良性腫瘍 ⑥肺がん					
14	B・C胸膜・縦隔の疾患 ②自然気胸 D胸部外傷					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学各論Ⅱ (循環・血液・造血機能の障害)	1	1	後期	医師	慈風会職員 4名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	成人看護学③循環器 臨床外科看護各論 成人看護学④血液・造血器 /医学書院	
概要	循環・血液・造血疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
目標	循環・血液・造血疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
回数	授業内容・計画					
1 2 3 4・5	医師:10時間 3章 症状とその病態生理 A胸痛 B動悸 C呼吸困難 D浮腫 Eチアノーゼ Hショック 4章 検査と治療 B検査 ①心電図 ③心エコー法 ⑤心臓カテーテル法 C治療 ①内科的治療 5章 疾患の理解 B虚血性心疾患 C心不全 D血圧異常 E不整脈 F弁膜症 G心膜炎 H心筋疾患 ★先天性心疾患は小児看護学で学習予定					
6 7・8	医師2名:6時間 2章 心臓および脈管系 A心臓の疾患 ③後天性心疾患 ⑤補助循環 ⑥心臓移植 B血管の疾患 ②動脈の閉塞および血流障害 ③動脈瘤 ④静脈の血流障害					
9・10 11・12 13・14	医師:14時間(終講試験2時間含む) 3章 症状・身体所見とその病態生理 A 貧血 E 出血傾向 4章 検査と治療 B 治療 ④造血幹細胞移植 5章 疾患の理解 B 赤血球系の異常 C 白血球系の異常 D 血小板の異常 E 凝固系の異常					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学各論Ⅲ (栄養摂取・吸収機能の障害)	1	1	後期	医師	慈風会職員 4名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	成人看護学⑤消化器 臨床外科看護各論 臨床外科看護各論 成人看護学⑤歯・口腔 /医学書院	
概要	栄養摂取・吸収機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
目標	栄養摂取・吸収機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
回数	授業内容・計画					
1・2 3・4	医師:10時間(終講試験2時間含む) 3章 症状とその病態生理 C吐きけ・嘔吐 D腹痛 E吐血・下血 F下痢 G便秘 H腹部膨満 J腹水 K黄疸 4章 検査と治療 B検査 ⑥内視鏡検査 ⑦肝生検 ⑧放射線検査 ⑨X線コンピュータ断層像 ⑩磁気共鳴画像(MRI) 5章 疾患の理解 E肝臓・胆嚢の疾患 ①肝炎 ②肝硬変症					
5～7	医師:6時間 3章 消化器および腹部 A食道の疾患 B胃・十二指腸の疾患 C小腸・結腸・腹膜の疾患 D直腸・肛門の疾患					
8～10	医師:6時間 3章 消化器および腹部 F肝臓・肝外胆道系の疾患 G膵臓の疾患					
11～14	医師:8時間 3章 症状とその病態生理 A口腔症状 4章 検査と治療・処置 B検査 C治療・処置 5章 疾患の理解 B歯の異常と疾患 C口腔領域の炎症 E口腔領域の嚢胞 F口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 G歯と顎骨の外傷 I顎関節の疾患 J唾液腺の疾患					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目		単位数	学年	期間	実務経験		担当氏名	時間数
					職種			
病態生理・治療学各論Ⅳ (内部環境・排泄・生殖機能の障害)		1	1	後期	医師		慈風会職員 4名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)					授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない					講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	筆記試験				教科書・参考資料	成人看護学⑥内分泌・代謝 成人看護学⑧腎・泌尿器 成人看護学⑧腎・泌尿器 成人看護学⑨女性生殖器 /医学書院		
概要	内部環境・排泄・生殖機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後について理解する。							
目標	内部環境・排泄・生殖機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後について理解する。							
回数	授業内容・計画							
1	医師:10時間(終講試験2時間含む)							
2	3章 症状とその病態生理							
3	4章 検査	A内分泌疾患の検査	①ホルモンの血中濃度の測定 ④内分泌機能検査					
4	5章 疾患の理解	B代謝疾患の検査	②糖尿病の診断・治療に関連した検査					
		B内分泌疾患	①視床下部-下垂体前葉系疾患 ②視床下部-下垂体後葉系疾患					
		C代謝疾患	③甲状腺疾患 ④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患					
			①糖尿病 ②脂質異常症 ③肥満症とメタボリックシンドローム					
			④尿酸代謝異常					
5	医師:6時間							
6	3章 症状とその病態生理	A尿の異常	B排泄に関連した症状 I疼痛 J腸腸・腫瘍					
	4章 検査と治療・処置	B検査	⑤経尿道的操作および内視鏡検査					
		C治療と処置	③手術方法 ④腎・泌尿器がんの治療					
7	5章 疾患の理解	D排尿管理						
		J尿路・性器の感染症	K尿管の通過障害 L排尿・蓄尿傷害 M尿路損傷および異物 N尿路結石					
		O尿路・性器の腫瘍	P男性不妊症、男性性器機能障害、その他の男性生殖器疾患					
8	医師:6時間							
9	3章 症状とその病態生理	C脱水	D尿毒症 E浮腫 F循環器系の異常 G血液の異常					
10	4章 検査と治療・処置	B検査	③腎機能検査 ⑦生検 E透析療法 F腎移植					
	5章 疾患の理解	B腎不全とAKI・CKD	D糸球体腎炎 F尿細管間質性腎炎 G腎血管性病変					
		J尿路・性器の感染症						
11	医師:8時間							
12	3章 症状とその病態生理	A診察・検査	②診察・治療器具 ③理学的検査 ⑥画像検査 ⑨内視鏡検査					
	4章 診察・検査と治療・処置	B治療・処置	⑩染色体検査・遺伝子検査					
			①薬物療法 ②手術					
			4 外来などで行われる処置・治療 ①膣洗浄(膣洗) ②膣タンポン					
			④ダグラス窩穿刺 ⑤避妊					
13	5章 疾患の理解	C臓器別疾患	①外陰の疾患 ②膣の疾患 ③子宮の疾患 ④卵管の疾患 ⑤卵巣の疾患					
			⑥骨盤内炎症性疾患					
14		D機能的疾患	①月経異常・月経随伴症状 ②更年期障害 ③不妊症					
15		E性感染症						
15	終講試験							
留意事項								

	授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当氏名	時間数
					職種			
	病態生理・治療学各論Ⅴ (脳神経機能の障害、放射線検査と治療)	1	1	後期	医師 放射線技師		慈風会職員 3名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)					授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ・ 該当しない					講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	筆記試験			教科書・参考資料	成人看護学⑦脳・神経 臨床放射線医学 臨床放射線医学 /医学書 院			
概要	脳・神経機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。							
目標	脳・神経機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。							
回数	授業内容・計画							
1	医師:16時間(終講試験2時間含む) 3章 症状とその病態生理 B主な症状とその病態生理							①意識障害 ②高次脳機能障害 ③運動機能障害
2								④感覚機能障害 ⑤自律性のある機能の障害 ⑥頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア(脳嵌入) ⑦髄膜刺激症状 ⑧頭痛
3	4章 検査・診断と治療・処置 B検査							①神経学的診察 ④脳脊髄液検査・生検
4								①内科的治療法 ②外科的治療法
5	5章 疾患の理解 B脳疾患							①脳血管障害 ②脳腫瘍 ③頭部外傷
6	E末梢神経障害							③ギラン・バレー症候群 ⑤単神経障害(単ニューロパチー) ⑦顔面神経麻痺
7	F筋疾患・神経筋接合部疾患 G脱髄・変性疾患 J 脳・神経系の感染症							①脱髄疾患 ②脳・神経の変性疾患
★G中毒は災害看護(救急)で、Hてんかんは小児看護学援助論Ⅰで、I認知症は老年看護学で学習予定。 ★ J内科疾患に伴う神経疾患 ①神経ベーチェット病 ②サルコイドーシスは、病態生理・治療学Ⅶ(皮膚科)の講義で学習予定。 ③甲状腺機能低下症は、病態生理・治療学Ⅳ(内分泌)の講義で学習予定。								
8	医師:8時間 4章 MRI							
9	5章 超音波検査 6章 核医学検査							
10	7章 IVR・血管造影							
11	8章 放射線治療総論 10章 放射線治療各論							
12・13	放射線技師:6時間 序章 放射線医学のなりたちと意義							2章 X線診断 3章 CT
14								11章 放射線による障害と防護
15	終講試験							
留意事項								

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学各論Ⅵ (運動・感覚機能の障害)	1	1	後期	医師 看護師	慈風会職員 外部講師 2名 専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	成人看護学⑩運動器 成人看護学⑭耳鼻咽喉 成人看護学⑬眼 /医学書院	
概要	運動・感覚機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
目標	1. 運動機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する 2. 感覚機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する					
回数	授業内容・計画					
1	医師:14時間(終講試験2時間含む)					
2	3章 症状とその病態生理	A疼痛 B形態の異常 C関節運動の異常 E跛行(異常歩行)				
2	4章 診断・検査と治療・処置	A診察・診断の流れ B検査 C治療・処置 ①保存療法(非観血的治療)③手術療法				
3	5章 疾患の理解	A本章で学ぶ運動器疾患 1外傷性疾患 2非外傷性の疾患				
4		B骨折 C脱臼 D捻挫および打撲 E神経の損傷 F筋・腱・靱帯などの損傷				
5		G先天性疾患 H骨・関節の炎症性疾患 I骨腫瘍および軟部腫瘍				
6		J代謝性骨疾患 K腱の疾患 L神経・筋疾患 M上肢および上肢帯の疾患 N脊椎の疾患 O下肢および下肢帯の疾患 P運動器不安定症とロコモティブシンドローム				
7・8	外部医師2名:8時間					
	3章 症状とその病態生理	A耳の症状と病態生理 B鼻の症状と病態生理 D喉頭の症状と病態生理				
9	4章 検査と治療	A診察と診断の流れ B検査 C治療・処置				
10	5章 疾患の理解	A本書で学ぶ耳鼻咽喉疾患 B耳疾患 C鼻疾患 D口腔・口唇・唾液腺・咽喉頭疾患 E気管・食道・頸部疾患と音声・言語障害				
	専任教員:8時間					
11	3章 症状とその病態生理	A視機能に関連した症状 B視機能に関連しない症状				
12	4章 検査と治療・処置	B検査 C治療				
13・14	5章 疾患の理解	B機能の障害 C部位別の疾患 D外傷				
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
病態生理・治療学各論Ⅶ (感染、免疫・生体防御機能の障害)	1	1	前期	医師 看護師	外部講師 慈風会職員 専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	疾病のなりたちと回復の促進④微生物学 成人看護学⑫皮膚 /医学書院	
概要	感染・免疫・生体防御機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
目標	感染・免疫・生体防御機能の障害の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について理解する。					
回数	授業内容・計画					
1	外部医師:24時間(終講試験2時間含む)					
2	1章 微生物と微生物学 A微生物の性質 B微生物と人間					
3	2章 細菌の性質					
4	3章 ウィルスの性質					
5	4章 真菌の性質					
6	5章 感染と感染症					
7	6章 感染に対する生体防御機構					
8						
9	11章 病原細菌と細菌感染症					
10	12章 病原ウイルスとウイルス感染症					
11	13章 病原真菌と真菌感染症					
12	専任教員:2時間 2章 皮膚の構造と機能					
13	医師:4時間 3章 症状とその病態生理					
14	4章 検査と治療・処置 A診察と診断の流れ B検査 ①皮膚科的検査法 C治療・処置 5章 疾患の理解 B表在性皮膚疾患 C真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患 E物理・化学的皮膚障害 F腫瘍および色素異常症 G感染症 H全身性疾患に伴う皮膚病変					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師		時間数
				職種	氏名	
栄養学 (人間にとっての栄養のあり方)	1	1	前期	大学教員	外部講師	20
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
該当する ・ <u>該当しない</u>				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲			教科書・ 参考資料	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 /医学書院	
概要	人間にとっての栄養の意義、健康の保持増進のための栄養のあり方を理解する。 食事療法の概要を理解し、対象とその家族に適切な食事指導ができる能力を習得する。 チーム医療や医療連携で必要となる栄養学の知識を習得する。					
目標	1. 栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントが理解できる 2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝が理解できる 3. 看護師業務で活用できる栄養学的知識を身につける 4. 病院食、疾患別食事療法について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	1章「人間栄養学と看護」		A「栄養学を学ぶということ」 B「保健・医療における栄養学」 C「看護と栄養」			
2	2章「栄養素の種類とはたらき」		A「糖質」 B「脂質」			
3			C「タンパク質」			
4			D「ビタミン」 E「ミネラル」 F「食物繊維」 G「水」			
5・6	3章「食物の消化と栄養素の吸収・代謝」		B「栄養素の吸収」 C「栄養素の代謝」 A-4「吸収・代謝産物の排泄」			
7・8・9	4章「体内のエネルギーバランス」		A「食品のエネルギー」 B「体内のエネルギー」 C「エネルギー代謝の測定」 D「エネルギー消費」			
10	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
栄養学 (食事療法)	1	1	前期	栄養士	慈風会職員	10
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲			教科書・ 参考資料	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 /医学書院	
概要	人間にとっての栄養の意義、健康の保持増進のための栄養のあり方を理解する。 食事療法の概要を理解し、対象とその家族に適切な食事指導ができる能力を習得する。 チーム医療や医療連携で必要となる栄養学の知識を習得する。					
目標	1. 栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントが理解できる 2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝が理解できる 3. 看護師業務で活用できる栄養学的知識を身につける 4. 病院食、疾患別食事療法について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	8章「臨床栄養」		B「病院食」			
2.3	8章「臨床栄養」		D「疾患・症状別食事療法」 ②「循環器疾患患者の食事療法」 ③「消化器疾患患者の食事療法」 ④「栄養・代謝疾患患者の食事療法」 ⑤「腎臓疾患患者の食事療法」 ⑦「血液疾患患者の食事療法」 ⑩「摂食・嚥下障害者の食事療法」			
4			E「対象者別の栄養管理」 1 小児の栄養管理 3 高齢者の栄養管理 5 在宅療養者の栄養管理 F「病期別の栄養管理」 1 急性期の栄養管理 ②術前術後の栄養管理			
5	6章「栄養ケア・マネジメント」					
6	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
薬理学Ⅰ (薬の基礎知識)	1	1	後期	薬剤師	慈風会職員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲			教科書・参考資料	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 /医学書院	
概要	薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する。					
目標	1. 薬理作用、薬物の吸収・代謝・排泄について理解できる 2. 薬の管理について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	第Ⅰ部 薬理学総論		1章	A「薬物治療と看護」		
2			2章	A「薬が作用するしくみ」		
3				B「薬の体内動態」 ②薬物の吸収 ③薬物の分布 ④薬物の代謝と排泄 ⑤治療において重要となる薬物動態の指標		
4				C「薬物相互作用」		
5				E「薬物使用の有益性と危険性」		
6				F「薬と法律」		
7			15章「消毒薬」	★ 薬の投与経路は基礎看護技術論Ⅴで受講		
8	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
薬理学Ⅱ (臨床薬理)	1	2	前期	薬剤師	慈風会職員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲			教科書・ 参考資料	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 /医学書院	
概要	主たる疾患に対する薬物と副作用について理解する。					
目標	1. 臨床現場で用いられている薬物の作用機構を副作用、投与上の注意点が理解できる 2. 小児・妊婦・高齢者に対する薬物治療上の注意点が理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	3章「抗感染症薬」 B 抗菌薬 C 抗真菌薬・抗ウィルス薬・抗寄生虫薬					
2	5章「免疫治療薬」 B 免疫抑制薬					
3	C 予防接種薬・免疫刺激薬・抗毒素					
4	6章「抗アレルギー薬・抗炎症薬」					
5	8章「中枢神経系に作用する薬物」 A 中枢神経系のはたらきと薬物 C 睡眠薬・抗不安薬 D 抗精神病薬					
6	E 抗うつ薬・気分安定薬 F パーキンソン病治療薬 G 抗てんかん薬 H 麻薬性鎮痛薬					
7	7章「末梢での神経活動に作用する薬物」					
8	9章「循環器系に作用する薬物」 A 降圧薬 B 狭心症治療薬 C 心不全治療薬 D 抗不整脈薬 E 利尿薬					
9	F 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 G 血液に作用する薬物					
10	10章「呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物」 A 呼吸器系に作用する薬物 B 消化器系に作用する薬物					
11	C 生殖器系・泌尿器系に作用する薬物					
12	11章「物質代謝に作用する薬物」 A ホルモンとホルモン拮抗薬 ①糖尿病治療薬					
12	D 治療薬としてのビタミン					
13	12章「皮膚科用薬・眼科用薬」 A 皮膚に使用する薬物 B 眼科用薬					
13	13章「救急の際に使用される薬物」					
14	14章「漢方薬」 ★局所麻酔、麻酔薬は成人看護学援助論Ⅰ、予防接種薬は小児看護学概論Ⅱ、輸血製剤は基礎看護技術Ⅴで受講					
15	終講試験					
留意事項						